



Title	業績リスト(1995)
Author(s)	
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1996, 2(1), p. 43-54
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/56664">https://hdl.handle.net/11094/56664</a>
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 業績リスト (1995年)

### 基礎看護学講座

#### 1. 論文 (原著, 総説, 報告書等)

- 1) 松木光子: 米国の看護診断をめぐる思想史, *Quality Nursing*, 1(1), 4-14, 1995.
- 2) 松木光子: 日本看護診断史, *Quality Nursing*, 1(4), 4-9, 1995.
- 3) 松木光子: 国際看護診断・業務分類の必要性とその動向, *大阪大学看護学雑誌*, 1(1), 2-9, 1995.
- 4) 松木光子: 関連領域における精神科診断学: 看護学, 精神科診断学, 6(3), 通巻23, 279-289, 1995.
- 5) 大谷英子, 江川隆子, 松木光子: 臨床実習における看護診断の展開と指導, *Quality Nursing*, 1(5), 36-43, 1995.
- 6) 大谷英子, 松木光子: 老人イメージと形成要因に関する調査研究 (1), 大学生の老人イメージと生活経験の関連, *日本看護研究学会雑誌*, 18(4), 25-38, 1995.
- 7) 越村利江, 松木光子, 大谷英子: 乳癌手術患者の自我状態と不安度, ソーシャル・サポートとの関係, 1(1), 25-30, *大阪大学看護学雑誌*, 1995.
- 8) 小笠原知枝: 基礎看護教育における看護過程と看護診断, *Quality Nursing*, 1(4), 24-29, 1995.
- 9) 増田末雄, 小笠原知枝, 前田優: 発達課題に関する研究 (4), *常葉学園大学研究紀要教育学部*15, 139-150, 1995.
- 10) 近藤紀子, 大野ゆう子, 他: 筋・神経系難病患者における病期別支援の在り方に関する研究, 厚生省特定疾患「難病のケア・システム調査研究班」平成6年度報告, 100-103, 1995.
- 11) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 在宅人工呼吸療法における機器供給システムに関する研究, 厚生省特定疾患「難病のケア・システム調査研究班」平成6年度報告, 147-150, 1995.
- 12) 大野ゆう子, 他: 神経難病の看護と保健活動, *総合臨床*, 44(11), 2546-2554, 1995.
- 13) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 府中病院通院の進行性筋ジストロフィー症患者会員に対する看護支援, プロジェクト研究「府中キャンパスにおける在宅看護システムのあり方に関する研究 (第2年次報告)」, 43-47, 1995.
- 14) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 患者側からみた東京都難病施策の利用状況と今後の展望, 平成5年度特殊疾病(難病)に関する研究報告書, 249-270, 1995.
- 15) 長谷川美津子, 大野ゆう子, 他: 在宅人工呼吸療法(HMV)児における医療システムに関する研究, *日本呼吸管理学会誌*, 15(1), 32, 1995.
- 16) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 在宅医療システムに関する研究, *東京都神経科学総合研究所研究紀要*, 23, 125-126, 1995.
- 17) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 神経・筋疾患の在宅看護に関する研究, *東京都神経科学総合研究所研究紀要*, 23, 126-128, 1995.

する研究, 東京都神経科学総合研究所研究紀要, 23, 126-128, 1995.

- 18) 大野ゆう子, 他: 難病の人々の支援システムに関する数量的研究, *東京都神経科学総合研究所研究紀要*, 23, 129-130, 1995.
- 19) 衛藤幹子, 大野ゆう子, 他: 地域ケアシステムの再構築に関する研究, *東京都神経科学総合研究所研究紀要*, 23, 132-133, 1995.
- 20) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 在宅人工呼吸療法者の看護・神経研でのとりくみ, *東京都神経科学総合研究所研究紀要*, 23, 204-209, 1995.
- 21) 牛込三和子, 大野ゆう子, 他: 筋・神経系疾患患者および心身障害者に対する保健・医療・福祉・システムとケアに関する研究, *東京都神経科学総合研究所年報平成6年度*, 23, 72-74, 1995.
- 22) 大野ゆう子, 他: 筋・神経系障害をもつ人々に対する地域ケア・システムに関する数量的研究, *東京都神経科学総合研究所年報平成6年度*, 23, 75, 1995.
- 23) 衛藤幹子, 大野ゆう子, 他: 筋・神経系難病の地域支援システムの再構築に関する研究, *東京都神経科学総合研究所年報平成6年度*, 23, 77, 1995.
- 24) 阿曾洋子, 高鳥毛敏雄, 山本恵子, 多田羅浩三: 在宅寝たきり老人の自立意欲と生命予後: 厚生の指標, 42(6), 17-23, 1995.
- 25) 阿曾洋子: 看護技術教育と臨床実習の変化, *看護教育*, 36(8), 662-667, 1995.
- 26) 阿曾洋子, 氏家幸子, 大中幸三郎, 丸橋佐和子, 田中結華: 老人の褥瘡発生に及ぼす循環動態・有限要素解析による臨床看護学的研究, 平成4年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 1995.
- 27) 氏家幸子, 阿曾洋子, 上原ます子, 中村裕美子, 田中結華, 他: 入院・退院・在宅療養における看護の継続性に関する研究, 社会福祉・医療事業団助成金の交付による研究委託事業報告書, 1995.

#### 2. 単行本 (著書, 翻訳本)

- 1) 松木光子編著: 不足と過剰の間で, 栄養の摂取, p1-80, 講談社, 1995.
- 2) 松木光子編著: JJN ブックス, 看護診断入門, p4-45, 医学書院, 1995.
- 3) 松木光子編著: JJN ブックス, ケーススタディ看護過程, p8-37, 162-172, 医学書院, 1995.
- 4) Carpenito, L. J., : *Handbook of Nursing Diagnosis*, 5th ed., 1993. 松木光子・他訳, 看護診断ハンドブック, 新訂第2版, 医学書院, 1995.
- 5) Roy, C., : *Introduction to Nursing An Adaptation Model*, 2nd ed., 1984. 松木光子監訳, 適応看護モデル

序説, 邦訳第2版, HBJ出版局, 1995.

6) Marriner, A., ed., : *Nursing Theorists and Their Works* 2nd ed., 1989. 都留伸子・松木光子・他訳, 看護理論家とその業績, 第2版, 「シスターカリスマトロイ, 適応モデル」, p327-346, 医学書院, 1995.

7) Mariah Snyder, 小笠原知枝訳: ケーススタディ「思考過程の変調」の妥当性の検証, 看護診断1995, 日本看護診断研究会第4回学術集会報告書, 医学書院, p34-40, 1995.

3. 学会発表 (抄録集, Proceedings)

1) 松木光子: 会長講演, 我が国における看護診断の発達と課題, 日本看護診断学会第1回学術大会, 1995.

2) 大谷英子, 松木光子: *Multinational Validation of Anxiety, Hopelessness, and Ineffective Airway Clearance on ICU*, p434-435, The Japan Academy of Nursing Science 2nd International Nursing Research Conference in Kobe Proceedings, 1995.

3) 小笠原知枝, 久米弥寿子, 田中結華, 松木光子: 看護教育における個人レベルの臨床実習指導論—臨床実習指導者のパーソナリティによる影響—, 第15回日本看護科学学会, 1995.

4) Chie Ogasawara, Takako Egawa, Mitsuko Matsuki: *Study of Pain in Cancer Patient of Measurement Scale based on Qualitative Evaluation*, JANS Second International Nursing Research Conference Proceedings, 240-241, 1995.

5) 小野光子, 大野ゆう子, 他: 神奈川県における特定疾患者療養生活の実態, 日本公衆衛生雑誌, 42(10), 653, 1995.

6) 小山せつ子, 大野ゆう子, 他: 長野・篠ノ井保健所管内の神経難病の実態 (第1報), 日本公衆衛生雑誌, 42(10), 658, 1995.

7) 江沢和江, 大野ゆう子, 他: 地域側からみた難病長期療養施設ニーズ, 日本公衆衛生雑誌, 42(10), 654, 1995.

8) 阿曾洋子, 高島毛敏雄, 山本恵子, 多田羅浩三: 在宅寝たきり老人のADLと自立意欲の関連についての分析, 第51回日本公衆衛生学会, 1995.

9) 阿曾洋子, 氏家幸子, 丸橋佐和子, 田中結華: 高齢者の褥瘡発生予測に関する臨床看護学的研究—境界要素解析による皮膚に温度伝導率—, 第15回日本看護科学学会, 1995.

10) Itakura, I., Aso, Y., Tanaka, Y., Hatanaka, A.: *A Study of Comfortable Positioning during use of Shampoo Cart*, JANS Second International Nursing Research Conference Proceeding, p402-403, 1995.

11) 青木菜穂子, 上原ます子, 田中結華, 氏家幸子, 他: 「高齢患者, 退院指導・継続看護マニュアル」を用いた病院と地域の連携, 第54回日本公衆衛生学会総会, 1995.

12) 三好さち子, 上原ます子, 中村裕美子, 大森綏子, 庄司幸恵, 青木菜穂子, 松尾高子, 田中結華, 氏家幸子: 在宅療養に移行する高齢患者への退院指導の評価—退院指導マニュ

アルの活用—, 第26回日本看護学会老人看護分科会, 1995.

#### 4. 研究助成

1) 平成7年度文部省科学研究費 (一般B), 松木光子 (代表), 小笠原知枝, 江川隆子, 大野ゆう子, 城戸良弘, 大谷英子, 山本裕子: 看護情報システムのための看護診断の標準化と評価用具のソフト開発.

2) 平成7年度文部省科学研究費 (一般C), 小笠原知枝 (代表), 松木光子, 阿曾洋子, 田中結華, 久米弥寿子: 基礎看護教育における看護技術の指導法に関する研究.

### 母性・小児看護学講座

#### 1. 論文 (原著, 総説, 報告書等)

1) 小林美智子, 納谷保子, 鈴木敦子, 他: 母子保健における養育問題例への援助実態—被虐待児予防地域システムにおける保健所の役割, 厚生省心身障害児研究報告書, 1995.

2) Michiko Kobayashi, Yasuko Naya, Atsuko Suzuki: Child abuse viewed through the hot-line in Osaka, Japan, *Acta Paediatrica Japonica* 37, 272-278, 1995.

3) 鈴木敦子: 「小児看護学」における看護診断の展開と指導—看護過程との関わりにおいて, *Quality of nursing*, 1(5), 26-31, 1995.

4) 新道幸恵, 高谷嘉枝, 鈴木敦子, 他: ケアニーズの測定に関する研究, 厚生省看護総合対策研究報告書, 1995.

5) 鎌田佳奈美, 村上雅美, 竹折洋子, 平林高子, 鈴木敦子: 口唇口蓋裂をもつ心因性摂食障害児への関わり—依存欲求の表出を試みて—, 大阪大学看護学雑誌, 1(1), 31-38, 1995.

6) 林滋子 (代表), 堀井理司, 鎌田佳奈美, 他: MRSA 感染患者の看護に関する研究, 平成6年度厚生省看護科学研究事業, 研究成果報告書, 1995.

7) 堀井理司: 感染管理看護, 歴史的経過からわかる専門看護婦の意義, ナーシング・トウデイ, 10(6), 20-21, 1995.

8) 堀井理司, 山崎不二子, 鎌田佳奈美: MRSA 感染患者の看護に関する研究, 小児施設における児のニーズ把握と支援方法, 平成5年度厚生省科学研究費補助金, 看護対策総合研究事業研究報告書, 1995.

9) Inge Gurevich著, 堀井理司訳: 感染管理看護の実際, ナーシング・トウデイ, 10(4), 10-17, 1995.

10) 原田徳蔵: 小児高脂血症の薬物療法, *The Lipid*, 6(1): 143-147, 1995.

11) 原田徳蔵: 小児の治療指針—乳児難治性下痢症, 遅延性下痢症, 小児科診療, 増刊号, 58: 409-411, 1995.

12) K. Kozaiwa, H. Tajiri, N. Yoshimura, Y. Ozaki, K. Miki, K. Shimizu, T. Harada, S. Okada: Utility of duplex doppler ultrasound in evaluating portal hypertension in children, *J Pediatr Gastro-*

enterol Nutr, 21:215-219, 1995.

13) 吉村文一, 尾崎由和, 古座岩宏輔, 三木和典, 田尻 仁, 原田徳蔵, 岡田伸太郎: 下痢と腹部膨満を主訴とし, 消化管運動異常を認めた過敏性腸症候群の1例, 日本小児栄養消化器病学会雑誌, 9(1): 66-71, 1995.

14) 三木和典, 原田徳蔵, 田尻 仁, 古座岩宏輔, 尾崎由和, 吉村文一, 沢田 敦, 多田香苗, 恵谷ゆり, 岡田伸太郎: 小児消化管運動異常と cisapride の効果— cisapride 単回投与の胃十二指腸内圧検査における検討, 日本小児栄養消化器病学会雑誌, 9(1): 58-65, 1995.

15) 田尻 仁, 大川貴司, 古座岩宏輔, 原田徳蔵, 大杉夕子, 原 純一, 多和昭雄, 岡田伸太郎: 小児のウイルス性慢性肝炎における末梢血リンパ球サブセットの検討, 日本小児栄養消化器病学会雑誌, 9(1): 95-101, 1995.

16) 鍵谷九理子, 下辻常介, 大楠郁子, 藤川泰弘, 山上文良, 石井経康, 松本小百合, 原田徳蔵, 福沢正洋, 岡田 正: 腰椎圧迫骨折を契機に発見された副腎腺腫による Cushing 症候群の1例, 小児科臨床, 38(7): 96-100, 1995.

17) 田尻 仁, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 恵谷ゆり, 多田香苗, 尾崎由和, 三木和典, 原田徳蔵, 岡田伸太郎, 金崎 巧: 小児 C 型肝炎ウイルス関連抗体の臨床的意義—特に non-structural 5について—, 日本小児科学会雑誌, 99(10): 1751-1755, 1995.

18) 原田徳蔵: 特集・小児救急医療, 慢性疾患の急変対応の仕方—肝消化器疾患, 小児科臨床 48(12): 2977-2980, 1995.

19) 古座岩宏輔, 沢田 敦, 田尻 仁, 吉村文一, 尾崎由和, 三木和典, 原田徳蔵, 岡田伸太郎: 小児慢性肝疾患における血中可溶性インターロイキン-2 受容体, 血中ネオプロテリンの動態, 日本小児科学会雑誌, 99(12): 2129-2134, 1995.

20) N. Nakamura, C. Kuragaki, Y. Shidara, K. Yamaji and Y. Wada: Antibody to Annexin V Has Anti-Phospholipid and Lupus Anticoagulant Properties, American Journal of Hematology, 49: 347-348, 1995.

21) 中嶋有加里, 山地建二: 出産についての家族内情報伝達に関する研究, 大阪大学看護学雑誌, 1: 19-24, 1995.

22) 中村紀彦, 中嶋有加里, 小山田浩子, 山地建二, 木戸口公一, 光田信明, 東 千尋, 細野剛良, 和田芳直: ループスアンチコアグレントとアネキシンVの関連, 大阪母性衛生学会雑誌, 31: 42-43, 1995.

23) 中嶋有加里, 小山田浩子, 中村紀彦, 山地建二, 羽座典子, 河野正規, 藤岡千秋: 妊娠中および産後における保健行動の比較, 大阪母性衛生学会雑誌, 31: 79-82, 1995.

24) 小山田浩子, 中嶋有加里, 中村紀彦, 山地建二: 医療技術短期大学部最終入学生の受験時の志望動機について, 大阪母性衛生学会雑誌, 31: 101-105, 1995.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

1) David N. Jones ed : Understanding Child Abuse 2nd ed., 1987. 鈴木敦子 小林美智子 納谷保子訳: 児童虐待防止ハンドブック, 医学書院, 1995.

2) Gloria M. Bulecheck, Joanne C. McCloskey: Nursing Intervention, Second ed., 1992. 早川和生監訳, 堀井理司, 他訳: ナービング インターベンション, 看護診断にもとづく看護治療, 医学書院, 1995.

3. 学会発表(抄録集, Proceedings)

1) 高谷嘉枝, 鈴木敦子, 新道幸恵, 他: ワークサンプリンによる看護管理者の看護業務分析, 第33回日本病院管理学会学術総会, 1995.

2) Atsuko Suzuki, Hiromi Narakino : Nature of Child Abuse in Osaka and Nurse's Role in Care of Baby, 第2回国際看護学術集会, 1995.

3) 佐藤拓代, 小林美智子, 鈴木敦子, 他: 保健所母子活動における養育問題(第1報), 第42回小児保健学会, 1995.

4) 納谷保子, 小林美智子, 鈴木敦子, 他: 保健所でみる養育問題の予後(第2報), 第42回小児保健学会, 1995.

5) 鎌田佳奈美, 斎藤禮子: 長期 IVH 施行患児の摂食訓練に関する, 第5回日本小児看護研究学会, 1995.

6) 斎藤禮子, 鎌田佳奈美: 長期 IVH 施行患児の味覚に関する研究, 第42回小児保健学会, 1995.

7) 斎藤禮子, 濱中喜代, 鎌田佳奈美: 健常小学生の味覚識別に関する研究, 第42回小児保健学会, 1995.

8) 堀井理司, 林 滋子, 鎌田佳奈美, 田中彰子, 山崎不二子, 小林 信: MRSA 感染患者および家族のニーズ支援について, 第15回日本看護科学学会学術集会, 1995.

9) 尾崎由和, 原田徳蔵, 三木和典, 多田香苗, 恵谷ゆり, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 岡田伸太郎: 新生児マスクリーニングで発見された先天性甲状腺機能低下症の長期予後について, 第8回近畿小児科学会, 1995.

10) 西本潤史, 田尻 仁, 乾 幸治, 永井利三郎, 原田徳蔵, 岡田伸太郎: ウィルソン病11例の検討.

11) 原田徳蔵, 岡田伸太郎, 岡田 正, 岡本良三, 伊東裕康, 笹井康典, 水野久子, 船戸正久, 千代豪昭, 濱田和孝, 吉矢生人: 大阪における「小児在宅静脈栄養法」の実態調査, 第98回日本小児科学会, 1995.

12) T. Harada, K. Ozaki, K. Kozaiwa, K. Miki, H. Tajiri, S. Okada, K. Sando, Y. Takagi, A. Okada: Home Parenteral Nutrition in children, The third International symposium of the Japan-Russia medical exchange foundation, 1995.

13) 原田徳蔵, 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 尾崎由和, 三木和典, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 山東勤弥, 高木洋治, 岡田 正: 小児の在宅静脈栄養の現状と問題点, 第5回近畿輸液・栄養研究会, 1995.

14) 鍵谷九理子, 恵谷ゆり, 中村可奈, 沢田 敦, 尾崎由和, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 山本威久, 原田徳蔵, 岡田伸太郎:

大腿骨頭すべり症をきっかけに診断した汎下垂体機能不全の18歳男子例, 第5回近畿小児内分泌研究会, 1995.

15) 原田徳蔵: 子どもの肥満と成人病予防, 平成7年度大阪小児学会子どもの健康週間講演会「すこやかに育つて欲しい」, 1995.

16) 古座岩宏輔, 三木和典, 沢田 敦, 多田香苗, 恵谷ゆり, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 間歇的高カロリー輸液施行時における胃十二指腸内圧の変化, 第22回日本小児栄養消化器病学会, 1995.

17) 原田徳蔵, 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 尾崎由和, 三木和典, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 山東勤弥, 高木洋治, 岡田 正: 小児の在宅静脈栄養の現状と問題点.

18) 尾崎由和, 原田徳蔵, 多田香苗, 恵谷ゆり, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 福井雄一, 岡田 正: 胆道閉鎖症術後症例における脂質代謝の検討.

19) 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田 敦, 尾崎由和, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 気管切開術によって胃食道逆流症の著明な改善を得た色素性乾皮症の1例.

20) 沢田 敦, 田尻 仁, 古座岩宏輔, 恵谷ゆり, 多田香苗, 尾崎由和, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 虫明聰太郎: 小児におけるICG検査, Finger Piece法の応用および肝病理所見との相関.

21) 三宅和佳子, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 多田香苗, 恵谷ゆり, 沢田 敦, 尾崎由和, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 牧 一郎: 重症型潰瘍性大腸炎の1例における可溶性IL2-レセプターの経時的变化.

22) 田尻 仁, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 恵谷ゆり, 多田香苗, 尾崎由和, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 悪性腫瘍患児の小児C型慢性肝炎に対するインターフェロンとUbenimex併用療法.

23) 吉川真紀子, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 多田香苗, 恵谷ゆり, 沢田 敦, 尾崎由和, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 長期間肝機能正常であったC型慢性活動性肝炎の1例.

24) 尾崎由和, 多田香苗, 恵谷ゆり, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 清水一男: Diazoxideにより長期間良好な血糖コントロールが得られたnesideoblastosisの1例, 第29回日本小児内分泌学会, 1995.

25) 尾崎由和, 原田徳蔵, 多田香苗, 恵谷ゆり, 沢田 敦, 古座岩宏輔, 田尻 仁, 岡田伸太郎, 福井雄一, 岡田 正: 胆道閉鎖症術後症例における脂質代謝の検討, 第22回日本胆道閉鎖症研究会, 1995.

26) 原田徳蔵: 体質と生活様式—体質と寿命の関わり, 平成7年度大阪府医師会学校保健研修会講演会, 1995.

27) T. Seki, K. Yamaji, Y. Orita, S. Moriguchi: Simultaneous determination of xanthine and uric acid in biological samples by column-switching liquid chromatography with ultraviolet detection, International Symposium on chromatography—The 35th Anniversary of the research group on liquid chromatography in Japan—, 1995.

28) T. Hosono, M. Yanase-Fujiwara, Y. H. Zang, K. Yamada, K. Yamaji, K. Kanosue: Thermoregulatory vasodilatation induced by septal gonadotropin releasing hormone in anesthetized and unanesthetized rats, 2nd Joint Meeting of the Physiological Society of Japan and UK and Eire, 1995.

29) T. Seki, K. Yamaji, Y. Orita, S. Moriguchi, A. Shinoda: Simultaneous determination of uric acid and creatinine in biological fluid by column-switching liquid chromatography with ultraviolet detection, 19th International Symposium on Column Liquid Chromatography and Related Techniques, 1995.

30) T. Hosono, K. Yamada, Y. H. Zang, M. Yanase-Fujiwara, K. Yamaji, K. Kanosue: Effect of gonadotropin releasing hormone on thermoregulatory vasodilatation in rats, 4th IBRO World Congress of Neuroscience, 1995.

31) Y. Nakajima, K. Yamaji, C. Fujioka: The effect of various factors on maternal health behavior, 15th World Conference of the International Union for Health Promotion and Education, 1995.

32) Y. Nakajima: Comparison of maternal health behavior at early 1970' and 1993 in Osaka prefecture, 2nd International Nursing Research Conference, 1995.

33) K. Sawai, C. Azuma, K. Hashimoto, T. Kimura, K. Shimoya, K. Yamaji, M. Koyama, F. Saji: Analysis of leukemic inhibitory factor (LIF) function on the 1st trimester trophoblast, The 12th Asia Pacific Cancer Conference, 1995.

34) 中村紀彦, 中嶋有加里, 小山田浩子, 山地建二, 倉垣千恵, 木戸口公一, 光田信明, 東 千尋, 細野剛良, 和田芳直: ループスアンチコアグラン트とアネキシンVの関係, 第33回大阪母性衛生学会, 1995.

35) 中嶋有加里, 小山田浩子, 中村紀彦, 山地建二, 羽座典子, 河野正規, 藤岡千秋: 妊娠中及び産後における保健行動の比較, 第33回大阪母性衛生学会, 1995.

36) 小山田浩子, 中嶋有加里, 中村紀彦, 山地建二: 医療技術短期大学部最終入学生の受験時の志望動機について, 第33回大阪母性衛生学会, 1995.

37) 中村紀彦, 木戸口公一, 藤田富雄, 細野剛良, 山地建二: ループスアンチコアグラン트のアポトーシス誘導活性, 第47回日本産科婦人科学会, 1995.

38) 細野剛良, 中村紀彦, 山地建二: 無拘束無麻醉ラットにおける中隔野GnRHによる皮膚血管拡張作用, 第47回日本産科婦人科学会, 1995.

39) 中村紀彦, 木戸口公一, 藤田富雄, 山地建二, 和田芳直: ループスアンチコアグラン트のアポトーシス誘導活性, 第92回近畿産科婦人科学会, 1995.

40) 小山田浩子, 山地建二, 鈴木敦子, 原口範子, 米田美幸保, 萬本明子, 西崎孝道: 思春期外来における骨粗鬆症予防の視点からの援助, 第14回日本思春期学会, 1995.

41) 小山田浩子, 中嶋有加里, 中村紀彦, 山地建二, 原口範子, 萬本明子, 米田美幸保, 西崎孝道: 思春期外来における看護介入－体重減少を伴った続発無月経例について－, 第36回日本母性衛生学会, 1995.

42) 中嶋有加里, 小山田浩子, 中村紀彦, 山地建二, 羽座典子, 河野正規, 藤岡千秋: 出産と家族形態に関する研究, 第36回日本母性衛生学会, 1995.

43) 細野剛良, 光田信明, 高木 哲, 山地建二: ラット皮膚血管運動に対するエストロゲンと環境温度の効果, 第10回日本更年期学会, 1995.

44) 関得一郎, 山地建二, 折田義正, 森口征矢生, 篠田晶子: カラムスイッチング液体クロマトグラフィーによる尿酸とクレアチニンの同時測定, 第6回日本臨床化学会近畿支部総会, 1995.

#### 4. 研究助成

1) 平成7年度文部省科学研究費(一般C), 鈴木敦子(代表), 楠木野裕美, 鎌田佳奈美, 堀井理司, 小山田浩子: 被虐待児のケアニーズのアセスメント指標開発とその効果測定.

2) 平成7年度厚生省心身障害研究, 松井一朗(代表), 小林美智子, 納谷保子, 鈴木敦子: 母子保健における養育問題事例への援助実態.

3) 平成7年度厚生省災害時における公衆衛生活動に関する研究, 前田和甫(代表), 新道幸恵, 鈴木敦子, 北山秋雄, 楠木野裕美, 鎌田佳奈美: 被災した子どもの心のケアへの看護職のかかわりに関する研究.

4) 平成7年度笹川医学医療研究財団助成, 鎌田佳奈美: 事例による被虐待児および家族が抱えている問題分析と保健・医療職の介入方策の探求.

5) 平成7年度文部省科学研究費(一般C), 山地建二(代表), 和田芳直: ループスアンチコアグレントのアポトーシス誘導機構に関する分子細胞生物学的研究.

6) 財団法人骨粗鬆症財団助成, 小山田浩子(代表), 鈴木敦子, 山地建二, 原口範子: 思春期の骨粗鬆症予防と保健活動.

7) 平成7年度文部省科学研究費(奨励研究A), 中嶋有加里: 若い両親と児を支援するための地域社会システムの基礎的研究.

## 成人・老人看護学講座

### 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

1) 高橋章子: 医療の高度化・専門分化の中身ーとくに認定看護婦(士)との関連で, 救急看護婦の立場から, *Nursing Today*, 10(6)8-9, 1995.

2) 高橋章子: 救急看護婦のメンタルケア, チーム医療の中での看護婦の役割, *Emergency Nursing*, 夏期増刊号,

1995.

3) 江口秀子, 寺師 栄, 高橋章子, 広常秀人: 危機状況にある患者家族への対応, *Emergency Nursing*, 8(10), 29-34, 1995.

4) 刀谷峰子, 寺師 栄, 高橋章子: 看護者と患者・家族関係～急性期にある家族 臨床看護, 21(12), 1780-1783, 1995.

5) 江川隆子: 成人看護学における看護診断の指導とその展開, *Quality Nursing*, Vol.1 No.5, 1995.

6) 山本裕子, 江川隆子: 透析患者の看護計画の立案と評価のポイント, 臨床看護, 21(8): 1189-1197, 1995.

7) 江川隆子(訳): 基礎教育における看護診断の教育方法, ジャネット・R・ウェーバー(著), 医学書院, 看護学雑誌, 59/4, 336-342, 1995.

8) 江川隆子, 小平京子: 腎・泌尿器疾患患者のフィジカル・アセスメント, 看護技術'95-4増, Vol.41 No.6, 625-630, 1995.

9) 江川隆子: らくらく看護過程, 問題の総合・統合, EN 看護学生版, Vol.4 No.1, 90-93, 1995.

10) 江川隆子: らくらく看護過程, 看護診断その1, EN 看護学生版, Vol.4 No.2, 77-81, 1995.

11) 江川隆子: らくらく看護過程, 看護診断その2, EN 看護学生版, Vol.4 No.3, 84-87, 1995.

12) 江川隆子: らくらく看護過程, 看護診断の目標, EN 看護学生版, Vol.4 No.4, 86-90, 1995.

13) 江川隆子: らくらく看護過程, 計画の立案, EN 看護学生版, Vol.4 No.5, 72-77, 1995.

14) 江川隆子: らくらく看護過程, 実施(看護介入), EN 看護学生版, Vol.4 No.6, 56-61, 1995.

15) 江川隆子: らくらく看護過程, 評価, EN 看護学生版, Vol.4 No.8, 80-83, 1995.

16) 江川隆子: らくらく看護過程, 事例で学ぶ情報収集, EN 看護学生版, Vol.4 No.9, 82-85, 1995.

17) 江川隆子: らくらく看護過程, データベースと情報①, EN 看護学生版, Vol.4 No.10, 78-82, 1995.

18) 江川隆子: らくらく看護過程, データベースと情報②, EN 看護学生版, Vol.4 No.11, 76-79, 1995.

19) 江川隆子: らくらく看護過程, データベースと情報③, EN 看護学生版, Vol.4 No.12, 74-77, 1995.

20) 江川隆子: ナースにとっての看護過程とは何だろう? EN 看護学生版, Vol.4 No.7, 71-74, 1995.

21) 大谷英子, 江川隆子: アセスメントは, 看護過程の要, EN 看護学生版, Vol.4 No.7, 75-81, 1995.

22) 江川隆子, 大谷英子: 自分の弱点を知って, 看護過程に強くなろう, EN 看護学生版, Vol.4 No.7, 82-87, 1995.

23) 江川隆子: 透析看護と看護診断, 臨床透析, Vol.11 No.3, 7-17, 1995.

24) 萩野 敏, 榎本雅夫, 丹生真理子, 板谷英貴, 安江 清, 和田光雄: MAST法による特異IgE抗体陽性者の地域差(第2報), 耳鼻, 41: 95-101, 1995.

25) 寺田修久, 白鳥浩二, 寺田美恵, 戸川 清, 今野昭義, 池田建比古, 斎政彦, 福田節也, 山下哲次, 福井裕行, 荻野 敏: 鼻粘膜血管内皮細胞および好酸球におけるヒスタミンレセプター mRNA の発現, 日本鼻科学会会誌, 33: 333-340, 1995.

26) 荻野 敏: アレルギー性鼻炎に対する補中益氣湯の使用経験, *Prog. Med.* 15: 1472-1475, 1995.

27) 荻野 敏, 浅井英世, 石川裕雄, 鶴田至宏, 岡本英之, 落合薰, 吉田淳一, 野瀬道宏, 竹本市紅, 赤埴詩朗: 通年性アレルギー性鼻炎に対するテルフェナジンの効果—血液中 ECP との関係—, *耳鼻*, 41: 801-810, 1995.

28) 荻野 敏, 馬場謙治, 入船盛弘, 菊守 寛, 野入輝久, 神島俊子, 森脇計博, 野瀬道宏, 阿部能之, 後藤啓恵, 大川内一郎, 水津百合子, 浅井英世: 鼻過敏症に対する鼻局所温熱療法(スカイナースチーム)の臨床的検討, *耳鼻*, 41: 816-824, 1995.

29) 荻野 敏: アレルギー性鼻炎における漢方の位置づけ, *Prog. Med.* 15: 2643-2651, 1995.

30) 荻野 敏: 花粉症の薬物療法—抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤の用い方, *CLINICIAN* 42: 177-178, 191-193, 1995.

31) 荻野 敏: 花粉症の薬物治療, 漢方薬の効果的な使い方, *臨床と薬物治療*, 14: 233-236, 1995.

32) 荻野 敏: アスピリン喘息—とくに激性過敏症—, *総合臨床*, 44 (10): 2427-2430, 1995.

33) 荻野 敏: 耳鼻咽喉科の合併症に対する診断と治療に関する提案, 日本アスピリン喘息研究会会誌, 1(1): 77-85, 1995.

34) Ogino, S., Kawashima, K., Nibu, M., Irufume, M.: Comparison of multiple-antigen simultaneous test and CAP systems for diagnosis of nasal allergy, *ORL* 57: 210-213, 1995.

35) 丸橋佐和子, 西山久美子, 中野栄子, 塩川睦子, 田辺 康, 芦田信之, 原 萃子: 実態調査からみた臨地実習における学生による学習内容の評価と影響要因, *看護教育*, 36(2), 149-154, 1995.

36) 西山久美子, 丸橋佐和子, 塩川睦子, 中野栄子, 田辺 康, 芦田信之, 原 萃子: 臨地実習期間中の学生の生活実態調査からみた臨地実習が及ぼす学生生活への影響, *看護教育*, 36(2), 154-158, 1995.

37) 林 義孝, 丸橋佐和子, 花房謙一, 井上智子, 米田稔彦: 日常活動動作の自立促進のための研究—座面昇降式車椅子の在宅評価—(委員長 氏家幸子, 入院・退院・在宅療養における看護の継続性に関する研究)社会福祉・医療事業団(長寿社会福祉基金)委託研究報告書, 19-63, 1995.

38) 丸橋佐和子, 山本裕子: 動・静脈疾患患者のアセスメントと問題点, *臨床看護*, 21(3), 381-385, 1995.

39) 阿曾洋子, 氏家幸子, 大中幸三郎, 丸橋佐和子, 田中結華: 老人の褥瘡発生に及ぼす循環動態・境界要素解析による臨床看護学的研究, 平成4年度文部省科学研究費(一般B)

研究成果報告書, 1995.

40) 丸橋佐和子, 鎌田佳奈美, 山本裕子: 腰椎椎間板ヘルニア患者の術前からリハビリテーションまでの看護, *クリニカルスタディ*, 16(7), 16-25, 1995.

41) 山本裕子, 佐藤浩美, 丸橋佐和子: 看護過程の展開とケア技術—心筋梗塞の患者—, *臨床看護*, 21(13), 1916-1920, 1995.

42) Tsujinaka, T., Homma, T., Ebisui, C., Fujita, J., Kido, Y., Yano, M., Shibata, H., Tanaka, T., Mori, T.: Modulation of Muscle Protein Metabolism in Disseminated Intravascular Coagulation., *Eur. Surg. Res.*, 27, 227-233, 1995.

43) Tsujinaka, T., Shiozaki, H., Kido, Y., Murata, A., Nishijima, J., Iijima, S., Inoue, T., Mori, T.: Concurrent Chemotherapy (5-Fluorouracil and Cisplatin) and Radiation Therapy for Inoperable Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus Potentially Followed by Surgery., *J. Surg. Oncol.*, 58, 50-56, 1995.

44) 城戸良弘, 辻中利政: 間接熱量測定, *輸液と栄養*, 65, 7-9, 1995.

45) 城戸良弘: 患者の栄養必要量の決定法, *からだの科学(増刊号)*, 106-110, 1995.

46) 大谷英子・松木光子: 老人イメージに関する調査研究(1), 大学生の老人イメージと生活経験の関連, 日本看護研究会学会誌, 18(4), 25-38, 1995.

47) 堀 薫夫, 大谷英子: 老人イメージ生涯教育の視点から—, 大阪教育大学生涯教育研究室, 研究報告書, 1995.

48) 堀 薫夫, 大谷英子: 高齢者への偏見の世代間比較に関する調査研究—The Facts on Aging Quizを用いて—, 大阪教育大学紀要IV教育科学, 44(1), 1995.

49) 大谷英子, 江川隆子, 松木光子: 臨床実習における看護診断の展開と指導への視点, *Quality Nursing*, 1(5), 36-43, 1995.

50) 大谷英子: 臨床実習における教員の関わり—生きた看護診断とするための—, *看護展望*, 20(10), 38-47, 1995.

51) 山本裕子, 江川隆子: 透析患者のアセスメントと看護の問題点, *臨床看護*, 21(8), 1183-1188, 1995.

52) 山本裕子, 江川隆子: 透析患者の看護計画の立案と評価のポイント, *臨床看護*, 21(8), 1189-1197, 1995.

53) 山本裕子, 佐藤浩美, 丸橋佐和子: 看護過程の展開とケア技術—心筋梗塞の患者—, *臨床看護*, 21(13), 1916-1920, 1995.

54) 高橋章子: シンポジウム「先端医療の現場から」—救急看護の専門性—第24回医療会議, 1995.

## 2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 荻野 敏: 耳鼻疾患, 老年病の治療(改訂第2版)(編集: 荻原俊男), p306-313, 永井書店, 大阪, 1995.
- 2) 荻野 敏: アスピリン喘息と鼻ポリープ, 気道アレルギー

'95, (監修:牧野莊平, 石川 哲), p161-170, メディカルビュー社, 東京, 1995.

3) 荻野 敏: 点鼻薬, 耳鼻咽喉科診療 Q&A, 追録第22号, p529-2-529-3, 六法出版社, 名古屋, 1995.

4) 荻野 敏: 抗ヒスタミン剤の副作用, 耳鼻咽喉科診療 Q&A, 追録第22号, p617-6-617-7, 六法出版社, 名古屋, 1995.

5) 大谷英子: JJN ブックスケーススタディ看護過程, 松木光子編「インスリン非依存型糖尿病の老人女性に対する教育指導」担当, 医学書院, 36-74, 1995.

6) 大谷英子: JJN ブックス看護診断入門, 松木光子, 中木高夫編「インスリノーマによる低血糖発作を頻発する患者の看護診断」担当, 医学書院, 85-107, 1995.

3. 学会発表 (抄録集, Proceedings)

1) 荻野 敏: シンポジウム『アスピリン喘息の診断と治療に関するガイドライン作成への提案』“耳鼻科の合併症に対する診断と治療に関する提案”, 第33回日本アスピリン喘息研究会, 1995.

2) 荻野 敏: 特別講演『アレルギー性鼻炎における漢方の位置づけ』, 第8回関東耳鼻咽喉科漢方研究会, 1995.

3) 荻野 敏: ワークショッピング6『アスピリン過敏症の多様性と各領域の特徴』“耳鼻科領域におけるアスピリン過敏症”, 第7回日本アレルギー学会春季臨床大会, 1995.

4) 荻野 敏: アレルギー性鼻炎に対する補中益氣湯の臨床効果”, 第46回日本東洋医学会学術講演会, 1995.

5) 荻野 敏: “肩凝りに対する桂枝茯苓丸の効果”, 第11回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, 1995.

6) 荻野 敏: “喘息死したアスピリン喘息症例”, 第34回日本鼻科学会総会, 1995.

7) 荻野 敏: 講演『アスピリン喘息』, 第8回香川県耳鼻咽喉科感染・免疫研究会, 1995.

8) Ogino, S. : Positive rates of allergen-specific IgE antibodies in seven Japanese cities : use of the MAST system" The Second Asia Pacific Congress of Allergology and Clinical Immunology, 1995.

9) Ogino, S. : Effect of terfenadine of perennial nasal allergy and changes of Serum ECP levels" The Second Asia Pacific Congress of Allergology and Clinical Immunology, 1995.

10) 栗原宏子, 江川隆子他: 糖尿病患者における動脈硬化指標の検討, 第32回日本糖尿病学会近畿地方大会, 1995.

11) 花房謙一, 高橋香織, 岸 秀典, 井上 悟, 林 義孝, 氏家幸子, 丸橋佐和子: 在宅療養者の移乗動作改善を目的とした座面昇降式車椅子の臨床実験, 第29回日本作業療法学会, 268, 1995.

12) 阿曾洋子, 氏家幸子, 丸橋佐和子, 田中結華: 高齢者の褥瘡発生予測に関する臨床看護学的研究, 一境界要素解析による皮膚の温度電導率, 第15回日本看護科学学会講演集, 145, 1995.

13) 大谷英子: 看護診断の妥当性研究の一例, 一 ICU 分野における「非効果的気道净化」「不安」「絶望」の看護診断カテゴリーに関する妥当性の検討, 日本看護診断学会第1回学術大会, 1995.

14) Eiko otani, Mitsuko Matsuki : Multinational Validation of Anxiety, Hopelessness, and Ineffective Airway Clearance on ICU, 2nd International Nursing Research Conference Proceedings, 434-435, 1995.

4. 研究助成

1) 平成7年度文部省科学研究費(一般B), 松木光子(代表), 小笠原知枝, 江川隆子, 大野ゆう子, 城戸良弘, 大谷英子, 山本裕子: 看護情報システムのための看護診断の標準化と評価用具のソフト開発.

2) 文部省科学研究費(一般C(継続)), 城戸良弘(代表), 松木光子, 大谷英子, 山本裕子: 貧血などの患者に対する安静度決定のための基礎的研究.

## 地域看護学講座

### 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

1) Allison, D. B., Kaprio, J., Hayakawa, K. et al. : The Heritability of Body Mass Index among an International Sample of Monozygotic Twins Reared Apart, Int. J. Obesity, 45(6), 351-357, 1995.

2) Yokoyama, Y., Shimizu, T., Hayakawa, K., : Incidence of Handicaps in Multiple Births and Associated Factors, Act. Gent. Med. Gemellol., 44(2), 125-131, 1995.

3) Yokoyama, Y., Shimizu, T., Hayakawa, K., : Prevalence of Cerebral Palsy in Twins, Triplets and Quadruplets, Int. J. Epidemiology, 24(5), 943-948, 1995.

4) 早川和生: スーパーツインの実態調査, ネオネイタルケア, 8(10), 24-28, 1995.

5) 早川和生: 看護研究を発展させる環境づくり, 日本看護学会誌, 17(2), 17, 1995.

6) 早川和生: 看護職と介護職の役割分析, 看護, 47(10), 34-37, 1995.

7) 早川和生: 看護職独自の活動とは何か, 看護, 47(12), 210-213, 1995.

8) 早川和生: 看護治療学, 看護技術, 41(2), 29-30, 1995.

9) 早川和生: 多胎出産の増加と Community Health Care の課題, 大阪大学看護学雑誌, 1(1), 10-14, 1995.

10) 早川和生, 他: 双子老人の生活環境の比較からみた精神老化および痴呆の危険因子, 成人双生児2,500組の追跡健康調査, 大阪ガスグループ福祉財団研究調査報告集,

Vol. 8, 1995.

- 11) 早川和生, 他: 中高年齢に達した双生児の比較からみた加齢現象と生活環境要因の検討, 総合健康推進財団第6回研究報告書, Vol. 6, 84-91, 1995.
- 12) 早川和生, 他: 多胎家庭へのサポート・システムの現状および国際比較, 厚生省心身障害研究「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」, 平成6年度研究報告書, 163-164, 1995.
- 13) 横山美江, 清水忠彦, 早川和生: 双子・三つ子における障害児の発生状況, 日本衛生学雑誌, 49(9), 1013-1018, 1995.
- 14) 横山美江, 清水忠彦, 早川和生: 双胎妊娠との比較からみた品胎妊娠における妊娠経過の異常および児の出生児体重, 日本公衆衛生雑誌, 42(2), 113-120, 1995.
- 15) 横山美江, 清水忠彦, 早川和生: 双子の一方の児に対する母親の愛情の偏りと育児環境上の問題, 日本公衆衛生雑誌, 42(2), 104-112, 1995.
- 16) Iiyama K, Nagano M, Nagano N, Yo Y, Higaki J, Mikami H, Ogihara T: Effect of age on hypertension-induced wall thickening of the carotid artery assessed using ultrasonography, *Cardiology in the Elderly*, 3: 37-42, 1995.
- 17) Kamitani A, Rakugi H, Higaki J, Ohishi M, Shi SJ, Takami S, Nakata Y, Higashino Y, Fujii K, Mikami H, Miki T, Ogihara T: Enhanced predictability of myocardial infarction in Japanese by combined genotype analysis, *Hypertension*, 25: 950-953, 1995.
- 18) Katsuya T, Takami S, Higaki J, Serikawa T, Mikami H, Miki T, Ogihara T: Gap junction protein locus on chromosome 18 cosegregates with body weight in the spontaneously hypertensive rat, *Hypertension Research*, 18: 63-67, 1995.
- 19) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML: Hormonal mechanisms in blood pressure reduction during hemodialysis in patients with chronic renal failure, *Hypertension Research*, 18: 201-203, 1995.
- 20) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML: Mechanisms mediating postprandial blood pressure reduction in young and elderly subjects, *American Journal of Hypertension* (in press), 1995.
- 21) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML: Changes in frequency of orthostatic hypotension in elderly hypertensive patients under medications, *American Journal of Hypertension* (in press), 1995.
- 22) Moriguchi A, Mikami H, otsuka A, Katahira K, Kohara K, Ogihara T: Amino acids in the medulla cblongata contribute to baroreflex modulation by angiotensin II, *Brain Research Bulletin*, 36: 85-89, 1995.
- 23) Morishita R, Higaki J, Nakamura Y, Aoki M, Yamada K, Moriguchi A, Rakugi H, Tomita N, Tomita S, Yu H, Nakamura F, Mikami H, Ogihara T: Effect of an antihypertensive drug on brain angiotensin II levels in renal and spontaneously hypertensive rats, *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology*, 22: 665-669, 1995.
- 24) Morishita R, Higaki J, Yu H, Tomita N, Aoki M, Nakamura F, Mikami H, Ogihara T: Effect of antihypertensive drugs on vascular hypertrophy and vascular angiotensin II in two-kidney, one-clip hypertensive rats, *Journal of Vascular Medicine and Biology*, 5: 38-45, 1995.
- 25) Ogihara T, Nagano M, Higaki J, Kohara K, Mikami H: Persistent inhibition of the pressor and aldosterone responses to angiotensin-II by TCV-116 in normotensive subjects, *Journal of cardiovascilar Pharmacology*, 26: 490-494, 1995.
- 26) Ogihara T, Rakugi H, Ikegami H, Mikami H, Masuo K: Enhancement of insulin sensitivity by troglitazone lowers blood pressure in diabetic hypertensives, *AMerican Journal of Hypertension*, 8: 316-320, 1995.
- 27) Tomita N, Morishita R, Higaki J, Aoki M, Nakamura Y, Mikami H, Fukamizu A, Murakami K, Ogihara T: Transient disease in high blood pressure by in vivo transfer of antisense oligodeoxynucleotides against rat angiotensinogen, *Hypertension*, 26: 131-136, 1995.
- 28) Yamada K, Moriguchi A, Mikami H, Higaki J, Morishita R, Aoki M, Okuda N, Ogihara T: Importance of central amino acid neurotransmitter in the hypotensive effect of angiotensin II type 1 antagonist in the spontaneously hypertensive rat, In *Central Nervous System and Blood Pressure Control*, Niwa M, Imaizumi T, Takahashi H. (Eds.) Yubunsha, Tokyo, Japan, p65-70, 1995.
- 29) 神出 計, 長野正広, 中野信明, 小林隆一, 姚 香景, 檜垣實男, 三上 洋, 萩原俊男: 高血圧患者におけるインスリン抵抗性の心血管肥大への影響, *Therapeutic Research*, 16: 127-132, 1995.
- 30) 萱場一則, 内藤佳津雄, 長嶋紀一, 桑島 嶽, 岩本 篤, 三上 洋, 萩原俊男, 吉田 馨, 尾前照雄, 今鷹耕二, 藤井 潤: 老年高血圧患者の主観的 Quality of Life に影響する背景因子日本老年医学会雑誌, 32: 429-437, 1995.
- 31) 中村好男, 楽木宏実, 檜垣實男, 三上 洋, 萩原俊男: 血管平滑筋細胞の伸展刺激伝達系への ATP 感受性 K-channel

の関与, 日本臨床代謝学会記録, 31: 114-115, 1995.

32) 高見成洲, 勝谷友宏, 檜垣實男, 芹川忠夫, 三上 洋, 三木哲郎, 萩原俊男: 高血圧自然発症ラット (SHR) における体重規定遺伝子, 日本臨床代謝学会記録, 31: 116-117, 1995.

33) 富田奈留也, 檜垣實男, 森下竜一, 三上 洋, 金田安史, 萩原俊男: 高血圧自然発症ラットにおけるアンジオテンシンノーゲンの高血圧への影響の検討—アンチセンス技術とHVJ-リポゾーム法の応用, 血圧, 2: 199-205, 1995.

34) 三上 洋:  $\alpha$ 遮断薬, 日本臨牀, 53: 974-977, 1995.

35) 三上 洋:  $\beta$ 遮断薬・ $\alpha$ 遮断薬, 臨床医21(増刊号): 972-983, 1995.

36) 三上 洋: 軽症高血圧と降圧薬の選択基準— $\beta$ 遮断薬の選択基準, 血圧, 2: 574-581, 1995.

37) 三上 洋: 80歳以上の老年者の血圧コントロール, 臨床と薬物治療, 14: 120-122, 1995.

38) 三上 洋: 超高齢者への薬物治療—高血圧を長期間治療してきた超高齢者, 臨床と薬物治療, 14: 699-702, 1995.

39) 三上 洋: 降圧薬治療を行う対象に年齢制限は必要であるか, クリニカ, 22: 113-116, 1995.

40) 三上 洋: 高血圧治療における $\beta$ ブロッカー—QOLへの影響について—, 診療と新薬, 32: 1707-1715, 1995.

41) 三上 洋: 新しい降圧薬・開発中の降圧薬—NEP阻害薬, アデノシン誘導体, 腎と透析, 39(増刊号): 621-625, 1995.

42) 三上 洋, 萩原俊男: ACE阻害薬とQOL, 医学のあゆみ, 174: 773-777, 1995.

43) 三上 洋, 萩原俊男: 降圧療法—最近の動向—, 日本病院薬剤師会雑誌, 31: 153-158, 1995.

44) 三上 洋, 萩原俊男: 高齢者高血圧治療—降圧療法の副作用とQOL, 臨床科学, 31: 447-452, 1995.

45) 三上 洋, 萩原俊男: 高血圧の薬物療法—QOLを配慮した降圧療法, 内科, 75: 821-824, 1995.

46) 三上 洋, 萩原俊男: 高血圧症, すぐに役立つ初期診療ノウハウ, Clinic magazine, 281: 49-53, 1995.

47) 三上 洋, 萩原俊男: 老化に伴う疾患の病態と治療—高血圧症, 医学と薬学, 33: 807-812, 1995.

48) 三上 洋, 萩原俊男: 疾患別・症状別検査と境界値の取り扱い, 高血圧症, 臨床と研究, 72: 2136-2139, 1995.

49) 三上 洋, 萩原俊男: 高齢者の多剤投薬と副作用, 臨床と研究, 72: 1414-1419, 1995.

50) 三上 洋, 萩原俊男: QOLを考慮した降圧療法, Pharma Medica, 13: 71-75, 1995.

51) 氏家幸子, 上原ます子, 中村裕美子, 青木菜穂子, 大森綏子, 三好さち子, 庄司幸恵, 田中結華, 松尾高子: 高齢患者退院指導・継続看護マニュアルを用いた看護の継続性の検討, 社会福祉・医療事業団委託研究報告書, 67-99, 1995.

52) 上原ます子: 老人患者の継続看護としての訪問看護, Quality Nursing, 1(7), 48-54, 1995.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) Hayakawa, K. : Aging Twins and Cancer, in Directory of On-going Research in Cancer Epidemiology (Sankaranayanan, R. ed.) WHO, 1995.
- 2) 早川和生監訳 (Bulechek, G. M. and McCloskey, J. C. 著): ナーシングインターインション, 看護診断にもとづく看護治療, 医学書院, 1995.
- 3) 三上 洋: ACE阻害薬の薬理作用と効果, 「実地診療におけるレニン・アンジオテンシン系抑制薬の手引」(萩原俊男, 國府達郎, 猿田享男, 日和田邦男 編), 医薬ジャーナル社, 28-29, 1995.
- 4) 三上 洋: 閉塞性動脈硬化症を伴った高血圧とACE阻害薬, 「実地診療におけるレニン・アンジオテンシン系抑制薬の手引」(萩原俊男, 國府達郎, 猿田享男, 日和田邦男 編), 医薬ジャーナル社, 74-75, 1995.
- 5) 三上 洋: 老年者の薬物療法, 「老年病の治療」(萩原俊男, 編), 永井書店, 13-24, 1995.
- 6) 三上 洋: 高血圧とQOL, 「循環器疾患とQOL」(萩原俊男 編), 医薬ジャーナル社, 145-157, 1995.
- 7) 三上 洋: 高齢者に対する薬の使い方, 高齢者の降圧薬と副作用, 高齢者の薬—新しい考え方と使い方 (村井淳志, 塩 栄夫 編), 医薬出版社, 62-70, 1995.
- 8) 三上 洋, 萩原俊男:  $\alpha$ 遮断薬のQOLへの影響, 「高血圧と標的臓器障害の予防と管理—代謝面からみた新たな展開—」(築山久一郎, 日和田邦男, 萩原俊男 編著), 先端医学社, 177-184, 1995.
- 9) 三上 洋, 萩原俊男: 最近の疫学的成績にみる高血圧における代謝異常合併の重要性, 「高血圧と標的臓器障害の予防と管理—代謝面からみた新たな展開—」(築山久一郎, 日和田邦男, 萩原俊男 編著), 先端医学社, 14-24, 1995.
- 10) 三上 洋, 萩原俊男: Ca拮抗薬とQOL, 「Ca拮抗薬のすべて」(猿田享男, 日和田邦男, 萩原俊男 編著), 先端医学社, 327-335, 1995.

3. 学会発表(抄録集, Proceedings)

- 1) Hayakawa, K., et al. : Serum Apolipoprotein E Concentration and Cognitive Ability in Aging Twins, 8th International Congress for Twin Studies, Richmond (U.S.A.), 1995.
- 2) Yokoyama, Y., Hayakawa, K., : Maternal Partial Attachment for One of a Pair of Twins and the Influence of Child Caring Environmental Problems, 2nd International Nursing Research Conference, JANS, 1995.
- 3) 早川和生, 他: 多胎児を産み育てる家族に対する保健活動のあり方, 第54回日本公衆衛生学会, 1995.
- 4) 渡辺恭子, 道本知子, 早川和生, 他: 双胎児を持つ母親を対象とした母子保健教室の試み(第4報), 第54回日本公衆衛生学会, 1995.
- 5) 早川和生: 専門看護婦(CNS)養成と大学院教育の課題

(シンポジウム), 第9回日本看護研究学会・地方会, 1995.

6) Masuo K, Mikami H, Ogihara T and Tuck ML : Comparison in frequency of orthostatic and Post-prandial hypotension in elderly hypertensive patients between before and after antihypertensive medications, 7th European Meeting on Hypertension, 1995.

7) Yamada K, Moriguchi A, Mikami H, Okuda N, Higaki J and Ogihara T : Antagonism of peripheral angiotensin system elicits the release of inhibitory amino acids in the ventrolateral medulla of hypertensive rats, 7th European Meeting on Hypertension, 1995.

8) Mikami H : QOL in medical care for the elderly, 3rd International Symposium of the Japan-Russia Medical Exchange Foundation and the Japan-Russia Medical Collaborative Organization on the Methods and Processes of Japan-Russia Medical Exchange, 1995.

9) Yamada K, Moriguchi A, Morishita R, Higaki J, Aoki M, Mikami H, Kaneda Y and Ogihara T : Gene transfer of human angiotensin converting enzyme into the rat brain causes sustained blood pressure elevation. 49th Annual Fall Conference and Scientific Sessions, American Heart Association's Council for High Blood Pressure Research, 1995.

10) Masuo K, Mikami H, Kagawa K, Ogihara T and Tuck ML : Sympathetic nerve hyperactivity relates to insulin resistance and the onset or early stage of hypertension, 68th Scientific Sessions, American Heart Association, 1995.

11) Mikami H and Ogihara T : Effect of severity of organ damages on the quality of life in elderly essential hypertensive patients, 5th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology 1995.

12) 山田和生, 守口 篤, 三上 洋, 奥田直樹, 檜垣實男, 萩原俊男 : レニン-アングiotensin系阻害剤投与による中枢性降圧機作の検討, 第24回日本心脈管動物質学会, 1995.

13) 山田和生, 守口 篤, 三上 洋, 奥田直樹, 檜垣實男, 萩原俊男 : 血圧調節における中枢性神経伝達物質の重要性-正常血圧と高血圧動物での検討, 第59回日本循環器学会総会, 1995.

14) 舛尾和子, 三上 洋, 萩原俊男 : 高血圧家族歴の有無による脂質代謝およびインスリン感受性のちがい, 第59回日本循環器学会総会・学術集会, 1995.

15) 舛尾和子, 三上 洋, 萩原俊男 : 慢性腎不全患者の血液透析時降圧の発現機序への交感神経活動性の関与, 第25回日本腎臓学会西部学術大会, 1995.

16) 舛尾和子, 三上 洋, 香川 潔, 萩原俊男 : 加齢, Body Mass Index インスリン感受性低下, 脂質代謝異常の血圧値への影響, 第6回日本老年医学会近畿地方会, 1995.

17) 神出 計, 長野正広, 中野信明, 姚 香景, 守口 篤, 三上 洋, 檜垣實男, 萩原俊男 : 老年者におけるインスリン感受性の高血圧合併症への影響, 第37回日本老年医学会, 1995.

18) 舛尾和子, 三上 洋, 萩原俊男 : 老年高血圧症患者における起立性低血圧の発現頻度と発現機序-非肥満者, 肥満者の比較検討第37回日本老年医学会, 1995.

19) 三上 洋, 萩原俊男 : 老年高血圧における臓器障害とQOL, 第37回日本老年医学会, 1995.

20) 舛尾和子, 三上 洋, 萩原俊男 : 老年高血圧患者における起立性低血圧へのインスリン抵抗性, 交感神経活動性の関与, 第38回日本腎臓学会総会, 1995.

21) 佐々木陽, 上原ます子 : 糖尿病の生命予後および死因-平均15年間にわたる経過観察成績-, 第38回日本糖尿病学会, 1995.

22) 三好さち子, 上原ます子, 中村裕美子, 大森綾子, 庄司幸恵, 青木菜穂子, 松尾高子, 田中結華, 氏家幸子 : 在宅療養に移行する高齢患者への退院指導の評価, 第26回日本看護学会老人看護, 1995.

23) 青木菜穂子, 上原ます子, 田中結華, 中村裕美子, 松尾高子, 大森綾子, 三好さち子, 庄司幸恵, 氏家幸子 : 高齢患者退院指導・継続看護マニュアルを用いた病院と地域の連携, 第54回日本公衆衛生学会, 1995.

24) 上原ます子, 多田羅浩三 : 入院患者家族の介護負担感の経年変化と関係要因の検討, 第54回日本公衆衛生学会, 1995.

25) 石井京子, 上原ます子 : 高齢者への家族ケア機能の検討-家族ケア機能の作成と分析-, 第37回日本老年社会学会, 1995.

26) 上原ます子, 石井京子 : 高齢者への家族ケア機能の検討-健康時と入院時の変化と関係要因-, 第37回日本老年社会学会, 1995.

#### 4. 研究助成

- 1) 平成7年度文部省科学研究費(一般B), 早川和生(代表) : 双子老人の生活環境の比較からみた精神老化・痴呆の危険因子の研究, 成人双生児2,500組の追跡健康調査.
- 2) 平成7年度厚生省心身障害研究, 早川和生(代表) : 多胎児のケアのあり方に関する研究.
- 3) 三菱財団研究助成, 早川和生(代表) : 多胎児のファミリーケア及び家族支援システムに関する開拓的研究.
- 4) 大和証券ヘルス財団研究助成, 早川和生(代表) : 双子老人の生活環境の比較からみた精神老化・痴呆の危険因子の研究.
- 5) 平成7年度文部省科学研究費(一般C), 三上 洋(代表), 守口 篤 : 高血圧発症における延髓腹外側部での神経伝達物質としてのアミノ酸の役割の検討.
- 6) 平成7年度厚生省長寿科学総合研究事業, 尾前照雄班長

分担研究：高齢者の高血圧等慢性病態に対する薬物療法の評価に関する研究, 三上 洋 (代表)：高齢高血圧患者におけるインスリン感受性と降圧療法に関する研究.

7) 平成7年度循環器病委託研究, 5指-5, 松岡博昭班長, 分担研究：老年者に対する降圧療法の評価に関する研究, 萩原俊男 (代表), 三上 洋：老年者高血圧の治療とQOLおよび臓器障害.

8) 平成7年度文部省科学研究費 (一般C), 上原ます子 (代表)：高齢者介護による家族機能の変容過程の研究－ケアリング機能の長期観察から－.

9) 笹川医学医療研究財団, 平成7年度看護職員等に対する研究助成, 上原ます子 (代表)：訪問看護の評価に関するケースコントロール研究.

## 病院看護部

### 1. 論文 (原著, 総説, 報告書等)

1) 元菅千穂, 他：開腹術を受ける患者の看護, クリニカルナーシング19, 手術室, 1995.

2) 洪 愛子, 他：コンピューターを看護の味方にする－手術室看護支援情報システムの実際－, オペナーシング, 10(4), 1995.

3) 佐藤政枝, 他：縫合針カウント法の新しい試み－改良型スポンジシートの導入－, オペナーシング, 10(4), 1995.

4) 岩崎朋之, 他：低心拍出量症候群を呈した患者の看護, ハートナーシング, 6, 1995.

5) 佐藤浩美, 他：心筋梗塞の患者, 看護過程の展開とケア技術, 臨床看護 (臨時増刊号), Vol21, No.13, 1995.

6) 高橋ゆかり, 他：観察とモニタリングのポイント, 循環器系, 臨床看護, 5, 1995.

7) 森脇千賀子, 他：腎移植と看護, 感染のハイリスク状態, 月刊ナーシング, 5, 1995.

8) 鹿島泰子, 他：救急NOW／アメニティ環境, 看護婦の立場から, Emergency Nursing, 10, 1995.

### 2. 学会発表 (抄録集, Proceedings)

1) 三木佐登美, 他：慢性疼痛をもつ患者の看護ケアの重要性, 日本慢性疼痛学会.

2) 前川 哲, 他：熱傷手術期の窒素バランスと蛋白質摂取の重要性について, 第3回日本熱傷学会近畿地方会.

3) 秋吉愛子, 他：内視鏡手術器械の導入とその運用について, 第70回日本医科器械学会大会.

4) 草場明子, 他：自動カウント器を利用したガーゼカウントの効率化, 第70回日本医科器械学会大会.

5) 福田佐和子, 他：手術患者搬送におけるトランスマーバーの運用, 第70回日本医科器械学会大会.

6) 野々脇敬子, 他：重症熱傷患者の呼吸器感染の問題について, 第21回日本熱傷学会.

7) 東村昌代, 他：乳癌術後の胸帯を考案して, 第4回乳癌

### 学会.

8) 小松原咲子, 他：挫滅症候群患者の疼痛ケアについて, 第45回日本救急医学近畿地方会.

9) 洪 愛子, 他：日本の低侵襲手術の動向と周手術期看護, 第9回世界手術看護婦会議.

10) 草場明子, 他：自動カウント器を利用したガーゼカウントの効率化, 第28回大阪府手術室看護研究会.

11) 中村静子, 他：手術室でのマルチメディアの活用, 第17回日本手術医学会総会.

12) 高井清希子, 他：患者保温用ドレープの比較検討, 第17回日本手術医学会総会.

13) 小巻正泰, 他：集中治療部における左室補助心臓装着患者, 急性期看護, 第33回日本人工臓器学会大会

14) 西野博美, 他：長期補助人工心臓を必要とする患者看護の経験, 第33回日本人工臓器学会大会

15) 吉田真理子, 他：阪神大震災により被災した患者の危機状況への援助-クラッシュシンドロームの事例を通して-, 第23回日本救急医学会看護部会.

16) 金 京子, 他：小児の心臓カテーテル検査時の固定方法の改良を試して, 第16回中国・四国地区国立大学病院看護研究発表会.

17) 藤野智枝子, 他：神経難病をもつ老年期女性におけるセルフケアの分析, 第16回中国・四国地区国立大学病院看護研究発表会.

### 3. 院内看護研究発表

1) 三山栄子, 他 (特殊救急部)：重症熱傷における体液変動と看護診断, 1995. 1.12.

2) 石川順子, 他 (第4内科)：神経難病をもつ老年女性におけるセルフケアーオレムのセルフケア理論に基づいた援助を試みて-, 1995. 1.12.

3) 永岡千博, 他 (放射線科)：看護診断によるPOS看護記録の形式と質の評価・検討, 1995. 2.9.

4) 北村麻里子, 他 (整形外科)：慢性関節リウマチ患者のセルフケア確立をめざして, 1995. 2.9.

5) 深田亜紀子, 他 (第3内科)：第3内科におけるHIV感染予防対策マニュアルの作成, 1995. 6.8.

6) 塩谷亜由美, 他 (第1外科)：患者・看護婦間の看護ケア満足度の比較検討, 1995. 6.8.

7) 吉井美佳, 他 (第2外科)：深夜から日勤への重症患者の申し送りの時間短縮と内容の検討, 1995. 7.13.

8) 須藤昌子, 他 (分娩育児部)：立ち会い分娩がもたらす夫の意識変化, 1995. 7.13.

9) 平田まゆみ, 他 (神経科精神科)：外泊連絡用紙を通して精神科における家族へのアプローチを考える, 1995. 8.10.

10) 岡田典子, 他 (集中治療部)：急性期段階にある患者家族の面会時のニーズと医療スタッフの面会に対する意識の検討, 1995.8.10.

11) 杉本方代, 他 (産婦人科)：女性のための採尿容器を考える, 1995.9.14.

- 12) 大城直美, 他 (耳鼻咽喉科): 舌再建術術後の患者の食事の検討—嚥下障害のある患者にとって食べやすい食事とは—, 1995.9.14.
- 13) 北野幸代, 他 (皮膚科): 皮膚症状を有する患者の不安・ボディイメージ障害と自己受容について—STAIによる質問紙法を用いて—, 1995.10.12.
- 14) 池田和子, 他 (小児外科): 退院後的小児のストーマ管理の実態調査, 1995.10.12.
- 15) 丸山由美子, 他 (外科共通): 乳房切除術後患者のリハビリテーション指導の効果, 1995.11.9.
- 16) 加藤澄玲, 他 (泌尿器科): 初めて化学療法を受ける患者の不安が軽減した一事例, 1995.11.9.
- 17) 森田朱美, 他 (眼科): 術前オリエンテーションの改善—安静に対する患者の理解とニードの充足を目標として—, 1995.12.14.
- 18) 馬場 環, 他 (腫瘍外科): 化学療法を受けている患者の経口摂取の実態—調査により化学療法中の食事嗜好を探る—, 1995.12.14.